

文化庁同時提供
令和3年10月25日(月) 14時

令和3年10月25日	
資料提供	
担当課	宮下 直子 関係 企画部 企画政策局 文化学術課
担当者	胡麻 (内) 2058
担当課	熊野速玉大社祭事保存会 関係 教育庁 生涯学習局 文化遺産課
担当者	藤森 073-488-6294

令和3年度地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）の 被表彰者の決定について

令和3年度地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）の被表彰者が決定されましたので、お知らせします。

1 令和3年度本県被表彰者

氏名	住所	分野
宮下 直子	和歌山市	ピアニスト
熊野速玉大社祭事保存会	新宮市	民俗芸能の伝承

※功績等詳細は別紙のとおりです。

2 表彰の趣旨

全国各地において、芸術文化の振興、文化財の保護に尽力する等地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、その功績をたたえ文部科学大臣が表彰します。

3 表彰式

- (1) 日時 令和3年11月1日(月) 15時30分～17時30分
- (2) 場所 京都府立府民ホール（京都市上京区烏丸通一条下る龍前町590-1）

令和3年度 地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者について

みやした なおこ

氏名 宮下 直子

生年 昭和35年

現住所 和歌山県和歌山市

氏は、昭和35年に大阪府枚方市に生まれ、その後、和歌山市で育った。幼少の頃より、その音楽に対する非凡な才能を表し、昭和46年第25回全日本学生音楽コンクール西日本大会ピアノ部門小学校の部で優勝したのを始め、昭和51年には、第30回同コンクール高等学校の部にて2位に入賞するなど、全国にその名を轟かせた。

その後も研鑽を怠らず、県立桐蔭高等学校より東京藝術大学音楽学部ピアノ専攻に進学し、その技術を磨き続けた。同大学在学中に「安宅賞」を受賞し、マルティン・メルツァー客員教授が指揮する同大学オーケストラのソリストに選ばれ、絶賛を浴びる。

大学卒業後渡欧し、ロンドンにてマリア・クルチョ女史に師事し、その技術を磨くとともに、欧州各地で開催されるコンサートやコンクール等へ積極的に出演し、高い評価を得た。

留学中の昭和60年、浩宮殿下御臨席の英国オックスフォード大学ジャパニーズ・ソサエティ企画によるコンサートに招かれ、その繊細な指使いと大胆な演奏により観客の心をとらえ、賞賛をもって迎えられた。

昭和62年には、英国メニューヒン国際ヴァイオリンコンクールにて、伊藤亮太郎氏の伴奏者として参加、第4位入賞を果たし、その後一時帰国し、大阪市のザ・シンフォニーホールで大阪フィルハーモニー交響楽団推薦コンサートに出演するなど、その活躍の舞台を大きく広げた。

昭和63年、5年間の留学を終え帰国した後は、和歌山、東京、大阪でソロデビューリサイタルを開催。その後も、全国各地においてコンサート活動に取り組み、リサイタル、オーケストラとの共演、和歌山での独自企画によるコンサートシリーズの展開など、多様な演奏活動により、現在に至るまで多くの観衆を魅了し続けている。

また、演奏活動のみならず、相愛大学音楽学部、京都市立芸術大学音楽学部等での指導や、和歌山県新人演奏会選考委員を務めるなど、後進の育成指導にも精力的に取り組んでいる。

さらに、子どもたちが演奏に触れ表現することで、未来の和歌山を創ることを目指した音楽の祭典「きのくに音楽祭」では、初年度の令和元年度からプロデューサーを務めるなど、本県の音楽文化振興に果たす役割は大きい。

本県のみならず我が国を代表するピアニストとして、精力的に音楽活動を続け、優れた文化の創造と普及に取り組むなど、氏の本県文化の振興に対する功績は誠に多大である。



※下記アドレスに御連絡いただければ、写真データをメールで送信させていただきます。

担当 文化学術課 胡麻

Email goma_t0002@pref.wakayama.lg.jp

令和3年度 地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰団体について

くまのはやたまたいしゃさいじほぞんかい
団体名 熊野速玉大社祭事保存会
住 所 和歌山県新宮市

「新宮の速玉祭・御燈祭り」は、和歌山県新宮市に鎮座する熊野速玉大社を中心とする大規模な祭礼である。

速玉祭は、毎年10月15日に行われ、神馬の渡御があり、神霊を神馬に戴き、速玉大社や御旅所などを巡る。そして翌16日には神輿の渡御と御船祭りがある。「一つもの」と呼ぶ人形を載せた神馬を先頭に、神輿が発し町内を巡ったあと、神霊は神輿から船に遷され、川を遡上し、御船島へと向かう。御船島では小船による早舟競漕が行われ、終わると神霊は陸にあがって御旅所へと入り、所定の儀式があつて還御となる。

御燈祭りは、毎年2月6日に行われ、神倉山の山上に「上がり子」と称する参拝者が群れ集うなか、御神火が起こされ、火は大松明に移される。大松明はいったん下山し、再び上ってくると、人びとはその火を一斉に分かはじめ、やがてあたり一面は火の海のようになる。頃合いを見計らって山門が開けられると、上がり子たちは一気に山を駆け下りていく。翌日は、御礼参りの日で、神倉山の麓で大護摩供や火渡り、餅撒きなどがある。

昭和39年5月には、和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成28年3月には「新宮の速玉祭・御燈祭り」の名称で国の重要無形民俗文化財に指定された。

保持団体である熊野速玉大社祭事保存会は、熊野速玉大社を中核として周辺地域の氏子や関係団体と協力して長年にわたり祭礼の執行及び運営を行い、伝統文化の継承と地域の活性化に努めている。また、熊野の世界遺産を活かした観光や魅力発信等、地域振興にも重要な役割を果たし、本県の伝統文化の保護および文化振興に対する貢献は多大である。



新宮の速玉祭



新宮の御燈祭り

※ 下記アドレスにご連絡いただければ、写真データをメールで送信させていただきます。

担当 和歌山県教育庁 生涯学習局 文化遺産課 藤森

Email fujimori_h0002@pref.wakayama.lg.jp